

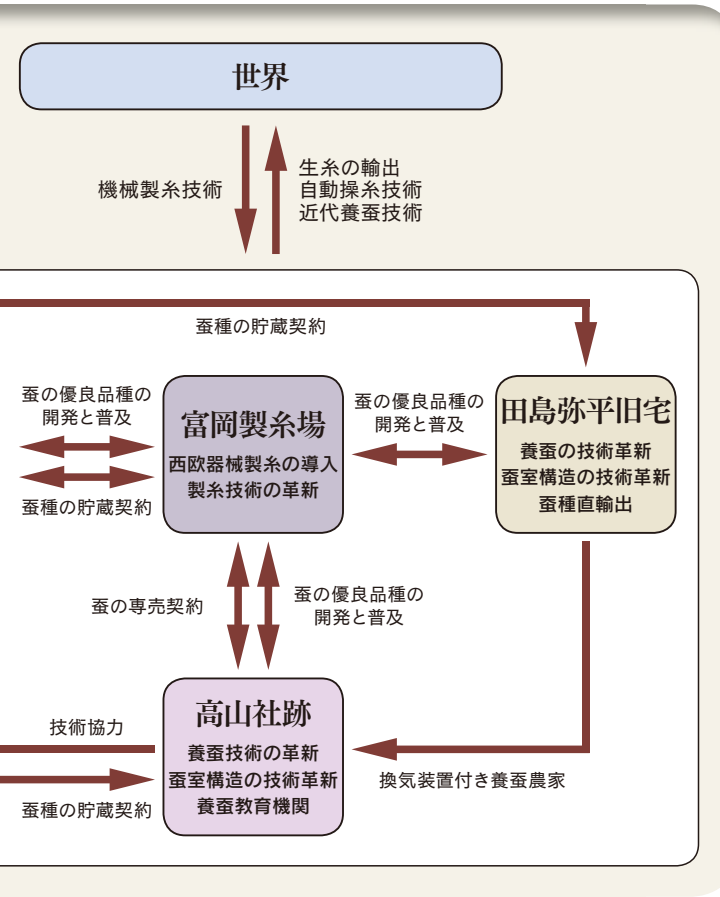
を中心におこなっていましたが、荒船風穴にある番舎(管理棟)との間に専用電話を敷設し、全国からの依頼に備えました。蚕種貯蔵の依頼は、現在確認されているだけで40の地域に及び、遠くは朝鮮半島にまで及んでいます。



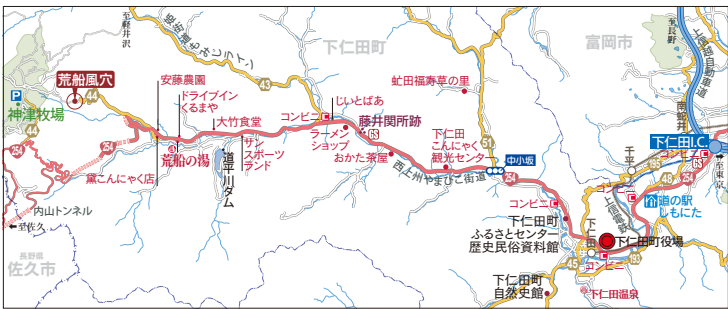
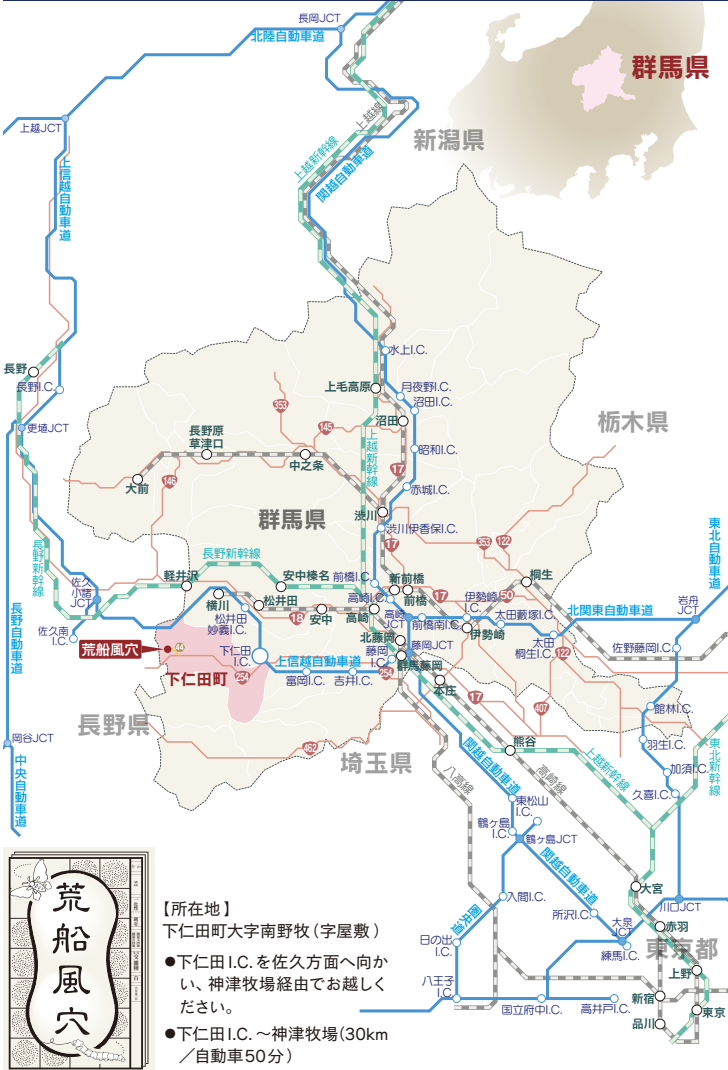
世界文化遺産 「富岡製糸場と絹産業遺産群」と「荒船風穴」

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、長い間生産量が限られていた生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の技術の「交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産です。日本が開発した生糸の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊かなものに変えました。

この中で、荒船風穴は絹産業遺産群を構成する要素の一つとして位置付けられています。国指定史跡としての評価に加え、蚕種貯蔵技術の革新によって蚕の優良品種の開発とその普及に重要な役割を果たしたことが評価されました。富岡製糸場とは「蚕の優良品種の開発と蚕種貯蔵の委託」という結びつきがあり、生糸の大量生産技術の向上に貢献しました。



荒船風穴へのアクセス



交通規制のご案内	
自家用車	●「下仁田I.C.」から佐久方面へ国道254号線・神津牧場を経由し「荒船風穴駐車場」まで33km /55分 ●ナビ設定の場合は「神津牧場」(下仁田町南野牧250)を設定し、『神津牧場』からは案内標識にて「神津牧場」～「荒船風穴駐車場」まで約3.5km ●「荒船風穴駐車場」から徒歩(往路15分・復路20分の急峻な山道です。)
公共交通	●上信電鉄下仁田駅から市野萱行の町営バス「市野萱」で下車。「市野萱」から徒歩2時間
見学者サポートサービス	●土日祝日に限り『サンスポーツランド(南野牧7481)』からシャトルワゴンを運行しています。上信ハイヤー TEL.82-2429 産業振興課 TEL.0274-64-8805 ●下仁田駅から「観光タクシー(割引料金設定)」を運行しています。上信ハイヤー TEL.82-2429 成和タクシー TEL.82-2078
周辺交通規制	●土・日・祝祭日/県道44号(下仁田浅科)線の一部で許可車両以外は通行禁止。『神津牧場』経由でお越しください) ●平日/荒船風穴から荒船風穴駐車場までの道路は神津牧場方面への一方通行。道路幅員を考慮し「神津牧場」経由でお越しいただくことをお勧めします。

お問い合わせ

下仁田町ふるさとセンター歴史民俗資料館

〒370-2623 群馬県甘楽郡下仁田町大字下小坂71-1
TEL.0274-82-5345 FAX.0274-67-7776



冷風が語る「近代化への人智」と「環境との共生」

荒船風穴

国指定史跡「あらふねふうけつ」

祝世界文化遺産登録

世界文化遺産

「富岡製糸場と絹産業遺産群」
～世界を変えた日本の技術革新～

国指定史跡

あらふね あずまやふうけつさんしゅちよぞうしよあと
「荒船・東谷風穴蚕種貯蔵所跡」

荒船風穴は、平成22年2月22日、中之条町の東谷風穴とともに国内に残る蚕種貯蔵風穴の中で初めて国の史跡に指定されました。

残念ながら当時の建物は残っていませんが、「操業当時の施設の痕跡(遺構)が残っていること」「現在も冷気が吹き出ていること」「国内最大規模の貯蔵能力があり、全国的な取引をおこなったこと」が評価され、指定に繋がりました。

風穴と蚕種貯蔵風穴

風穴は、一般的には天然の冷風が吹き出す洞穴や岩場のことを指しますが、養蚕業では、その冷気を利用して蚕種(蚕の卵)を冷蔵貯蔵する施設のことを指し、「蚕種貯蔵風穴」と呼んでいます。蚕種貯蔵風穴の利用は幕末の長野県を発祥として大正時代に全国各地に広がり、冷蔵技術が発達する昭和のはじめ頃まで使われていました。

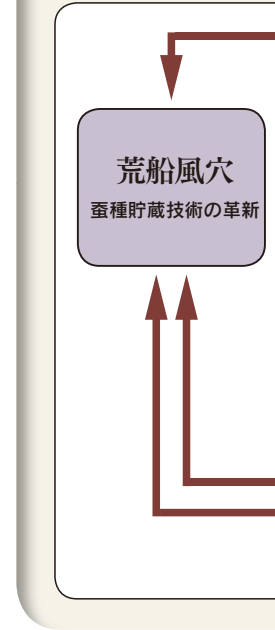
当時の養蚕業に携わった人々は、この風穴を利用することによって、蚕のふ化時期を調整することが出来るようになり、古代より1年に1回(春季)であった養蚕を複数回おこなうことが可能になりました。

荒船風穴の建設と運営

荒船風穴は、地元で蚕種製造業を営んでいた庭屋静太郎が、私財等を投じて建設しました。

下仁田町の西端、標高840m前後の山あいにあって国内最大規模の貯蔵能力を誇り、明治の終わり頃から昭和のはじめ頃まで利用されました。

荒船風穴の運営は、約7 km離れた庭屋静太郎の自宅兼事務所「春秋館」



先人が紡いだ自然との共生

自然エネルギーを巧みに利用し、地球環境に負荷をかけない産業形態は、現代に生きる私たちが学ぶべきことです。自然と共生し、近代化の一助となった風穴の冷風は、日常の慌ただしさに背を押される私たちの心を癒す爽やかな風となり、今も吹き出し続けています。

季節で見る荒船風穴



春

山の草木が目覚め、新緑の力強さに遺構全体が覆われる季節。風穴の石積み内部には多くの氷が見られ冷風の元となる部分が自然の力に育まれます。



夏

外気温の上昇とともに最も冷風を感じることができる季節。好条件が揃うと、風穴内部から吹き出た冷風により急激に冷やされた外気は、接合点で霧状に可視できます。遺構を覆う幻想的な姿は非日常を演じ、時の流れをゆるやかにし癒しの時間を提供してくれます。



秋

山並が色づき、風穴の冷風は1年の周期を終え、徐々に温度が上昇してくる季節。風穴遺構が紅葉をはじめとする自然景観と一体となり、自然の懷に抱かれた歴史を改めて感じることができます。



冬

史跡の保存管理上、冬季閉鎖となるこの季節は、例年遺構全体が雪で覆われます。これらの降雪も冷風の構成要素のひとつで、徐々に風穴内部に水分が供給されていきます。（冬期見学閉鎖[12月～3月]）

写真で辿る操業時の荒船風穴

（明治43年『北甘楽郡案内』より）



風穴内部の作業風穴

貯蔵を受託した種紙を箱に入れ、風穴内部に設置された棚に差し込み冷蔵貯蔵します。



番舎(左)と1号(右奥)・
2号風穴(中央右)

中央に写るのは電話線です。7km離れた運営母体「春秋館」との間に専用電話を敷設し、全国取引に対応しました。



風穴建屋(2号風穴)

操業当時の建屋の様子を今に伝えます。現在の石積みの上に壁と屋根が設けられ、貯蔵を行っていました。

